

Compact PCI

CPUボード

a P C I - 9 0 2 0

ユーザーズマニュアル

1.

2.

3.

4.

保証規定

1. 保証の範囲

1.1

1.2

1.3

2. 保証条件

2.1



2.2

2.3

2.4

2.5

目次

ご注意	i
製品の保証について	ii
保証規定	ii
1. 保証の範囲	ii
2. 保証条件	ii
MEMO	iv
目次	v
はじめに	vii
安全上のご注意	viii
 警告	viii
 注意	ix
MEMO	x
第1章	1
製品概要	1
1.1 概要	2
1.2 製品構成表	2
1.3 各部の名称	4
1.4 CD-ROMドライブ接続方法	6
第2章	8
初期設定と実装	8
2.1 ボード上のコネクタ	9
2.2 コネクタピンアサイン	11
2.3 スイッチとジャンパなどの設定	24
第3章	29
BIOSセットアップ	29
3.1 メニューと項目	30
3.2 STANDARD CMOS SETUP メニュー	32

3.3	BIOS FEATURES SETUP メニュー	34
3.4	CHIPSET FEATURES SETUP メニュー	36
3.5	POWER MANAGEMENT SETUP メニュー	36
3.6	PNP/PCI CONFIGURATION メニュー	38
3.7	INTEGRATED PERIPHERALS メニュー	39
3.8	LOAD BIOS DEFAULT メニュー	40
3.9	LOAD SETUP DEFAULT メニュー	40
3.10	SUPERVISOR PASSWORD メニュー	41
3.11	USER PASSWORD メニュー	41
3.12	IDE HDD DETECTION メニュー	41
第4章	43
その他の機能	43
4.1	ウォッチドッグタイマ機能	44
4.2	温度監視機能	46
第5章	48
製品仕様	48
製品のメンテナンスについて	a
製品のお問い合わせについて	b

DOS/V

Windows®

DOS/V

Windows®

DOS/V

Windows®





IC

第1章

製品概要

1.1 概要

aPCI-9020 は、米国 PICMG (PCI Industrial Computers Manufactures Group)による産業用の PCI 規格である CompactPCI 規格に準拠したシングルボードコンピュータです。

PC/AT 互換機のマザーボード機能を持った EPSON 社製カードプロセッサを搭載し、6U サイズで基本性能はもちろん、VGA、LAN、Compact Flash を搭載したオールインワン設計となっています。

1.2 製品構成表

aPCI-9020 の製品構成はオプション構成により以下のような型番がラインナップされます。

aPCI-9020/

CPU 動作周波数

3 : Geode GXLV Processor 300MHz

(Geode GXLV Processor 200MHz を希望の場合は弊社まで連絡ください)

メモリ容量 1

3 : 32MB

6 : 64MB

オプション 2

B : 無し

S : FDD/HDD 付属

F : FDD/HDD/CD-ROM 付属

1 メモリは CARD/PCI にオンボードで実装されているので購入後の変更、増設はできません。

2 オプションで B を選択した場合、パネルの穴が S または F と異なるため購入後の変更はできません。

本ボードに標準で添付される付属品は、B シリーズで 4 点、S シリーズで 6 点、F シリーズでは 7 点になります。開封後、すぐにご確認ください。付属品の添付には万全を期しておりますが、万一、不良品や不具合等がありましたら、お買い求めの販売店もしくは弊社までご連絡ください。

1	a P C I - 9 0 2 0 本体
2	キーボード / マウス分岐ケーブル
3	ユーザズマニュアル (本書)
4	お客様登録カード / 保証書 3
5	IDE 延長ケーブル (xxB シリーズには添付されません)
6	電源ケーブル (xxB シリーズには添付されません)
7	CD-ROM Drive (xxB、xxS シリーズには添付されません)

3 お客様カードにご記入の上、是非ともご返送ください。お客様がお買い求めになったボードに万一の故障があった場合などに素早く対応できます。また、よろしければ裏面のアンケートにもご協力ください。アドテックシステムサイエンスは今後もお客様の声を活かした製品作りを心掛けてまいります。

デバイスドライバに関して

本製品には、デバイスドライバが添付されておられません。

2001 年 7 月現在、以下の Web サイトからデバイスドライバをダウンロードすることが可能ですのでご利用下さい。

LAN 用ドライバ

<http://developer.intel.com/design/network/products/lan/controllers/82559er.htm>

CARDPCI/GX 用ドライバ

<http://www3.epson.co.jp/>

諸事情により Web アクセスが不可能な場合、リンクが繋がらない為ドライバが見あたらない等不明な点ございましたら 当社営業または代理店の方までご相談下さい。

1.3 各部の名称

ジャンパとコネクタの設定に関しては第 2 章をご覧ください。

フロントパネル

以下にフロントパネルの各部について説明します。

KeyBord & PS/2

添付分岐ケーブルによりキーボード、マウスを接続するコネクタです。直接繋ぐ場合、キーボードのみ使用できます。

COM1、COM2

16550 互換の UART によるシリアルポートです。
COM2 のみジャンパの設定で RS-422/RS485 をご使用になれます。
詳細は後述 ジャンパ設定 をご覧下さい。

LPT

プリンタポートです。
BIOS の設定により、SPP、EPP1.7、EPP1.9、ECP、ECP+EPP の設定が可能です。

VIDEO

D-SUB9 ピンインターフェースのディスプレイに繋ぐことにより、最大 1280 × 1024 での表示が可能になります。

Ethernet

10Base-T / 100Base-TX オートネゴシエーション切り替え対応の LAN インターフェースです。i82559ER を使用しています。

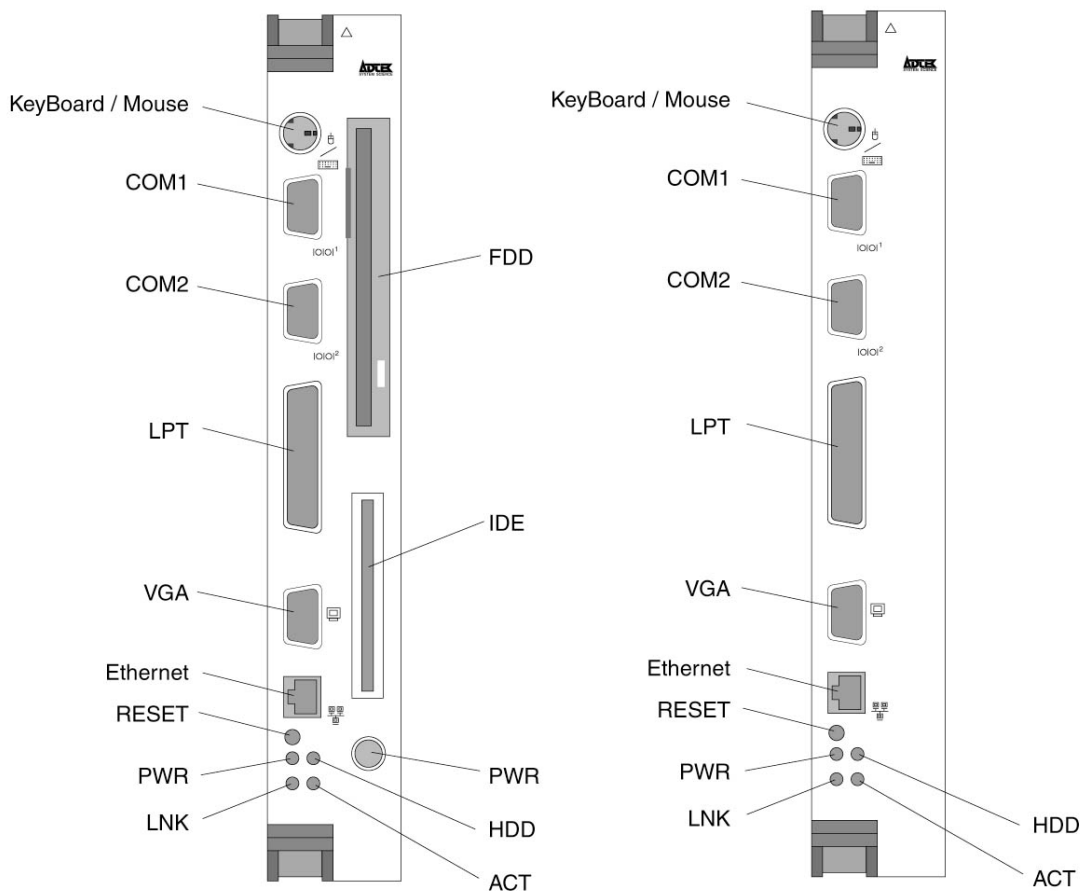
各種 LED

PWR : 3.3V が投入されると点灯します。

HDD : HDD にアクセスすると点滅します。オープンドレイン出力です。

LINK : Ethernet で オートネゴシエーション等により Link が確立すると点灯します。

ACT : Ethernet 上のパケットが到着すると点滅します。



パネル図

本パネル図右は、a P C I - 9 0 2 0 / 3 x B に適用されます。

本パネル図左は、a P C I - 9 0 2 0 / 3 3 S、a P C I - 9 0 2 0 / 3 6 F に適用されます。

1.4 CD - ROM ドライブ接続方法

aPCI - 9020 / xxB の場合

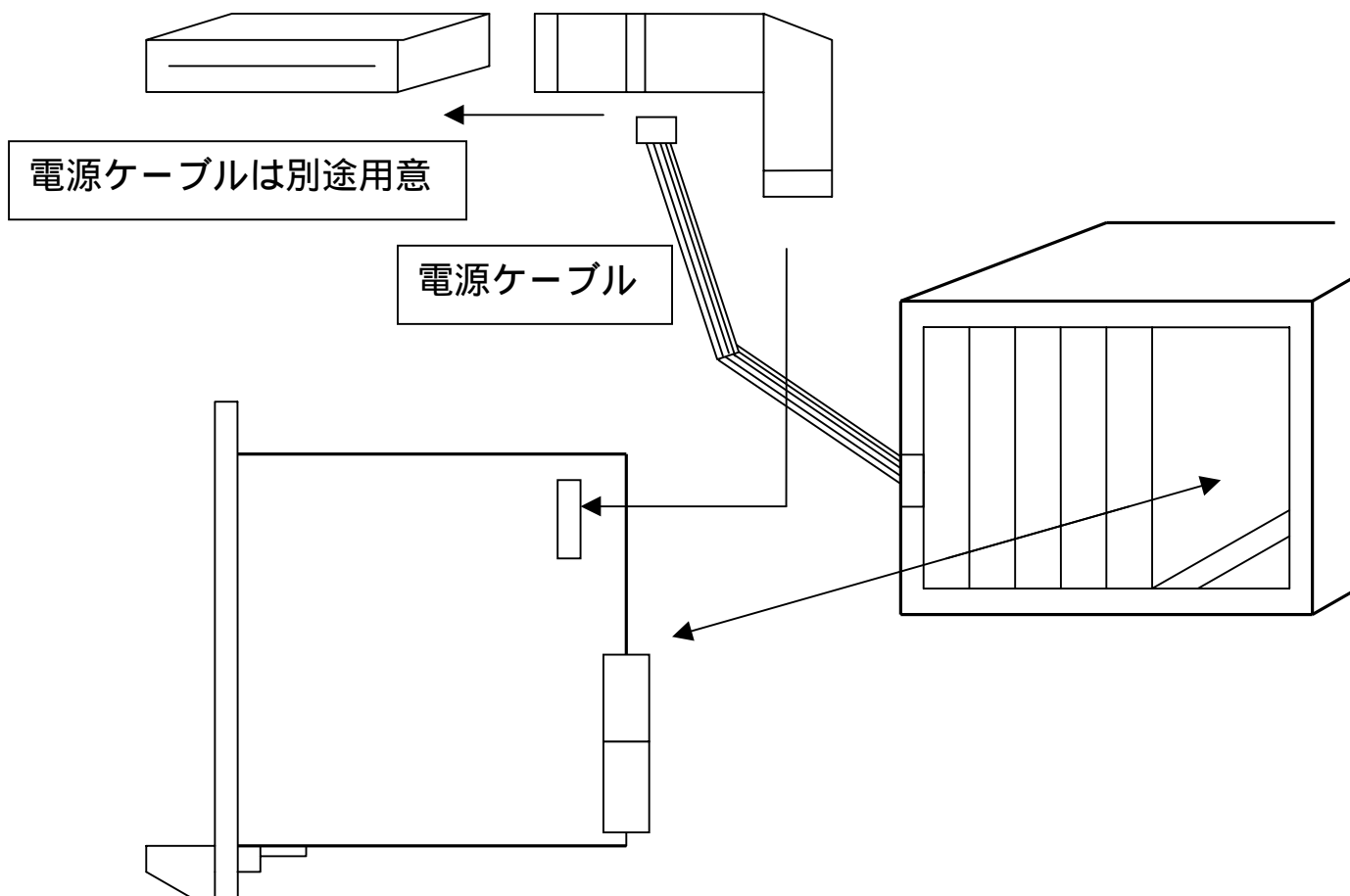
添付の IDE 延長ケーブルを用います。

1. 本体の電源スイッチを OFF してください。
2. ボード右上端にある IDE コネクタ(CN5 または CN6)に IDE 延長ケーブルをつなぎます。

CD-ROM ドライブの電源は添付の電源ケーブルを使用するか、または別途ご用意いただき電源をとってください。

注意：外部で CD - ROM または HDD を接続する場合、ラックのシステムスロット右側に十分な空きを用意してから CPU ボードを挿入してください。ケーブルへの不具合が発生する可能性があります。

CD-ROM ドライブ 又は HDD ドライブ

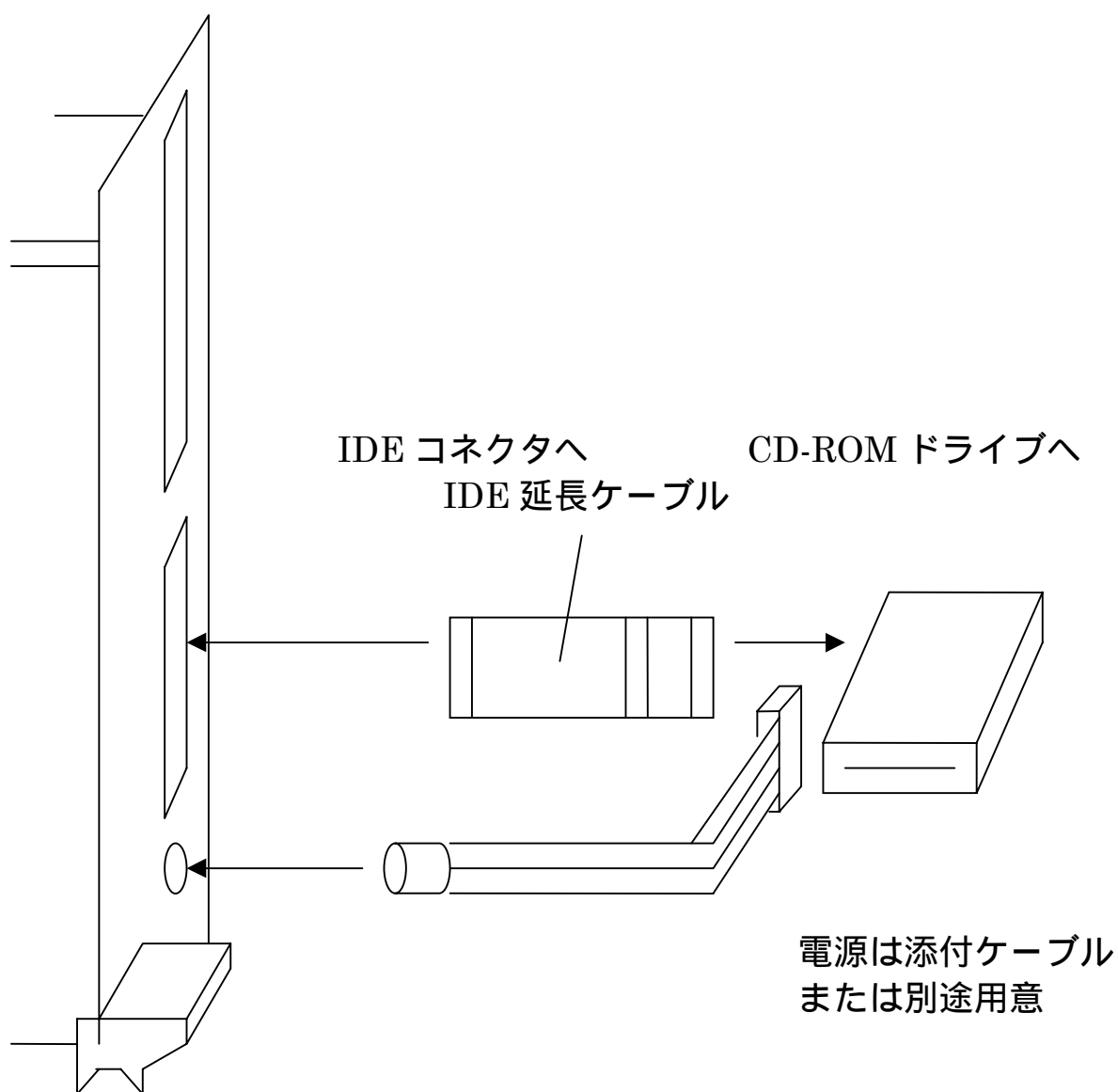


aPCI - 9020 / xxS、 aPCI - 9020 / xxF の場合

添付の IDE 延長ケーブルを用います。

1. 本体の電源スイッチを OFF してください。
2. 前面パネルにある IDE コネクタに IDE 延長ケーブルをつなぎます。

CD-ROM ドライブの電源は添付の電源ケーブルを使用するか、または別途ご用意いただき電源を供給してください。



第2章

初期設定と実装

2.1 ボード上のコネクタ

CPU ボード上のコネクタは、他のデバイスへのインターフェイスを提供しています。

以下にメインボードのコネクタ位置について記します。

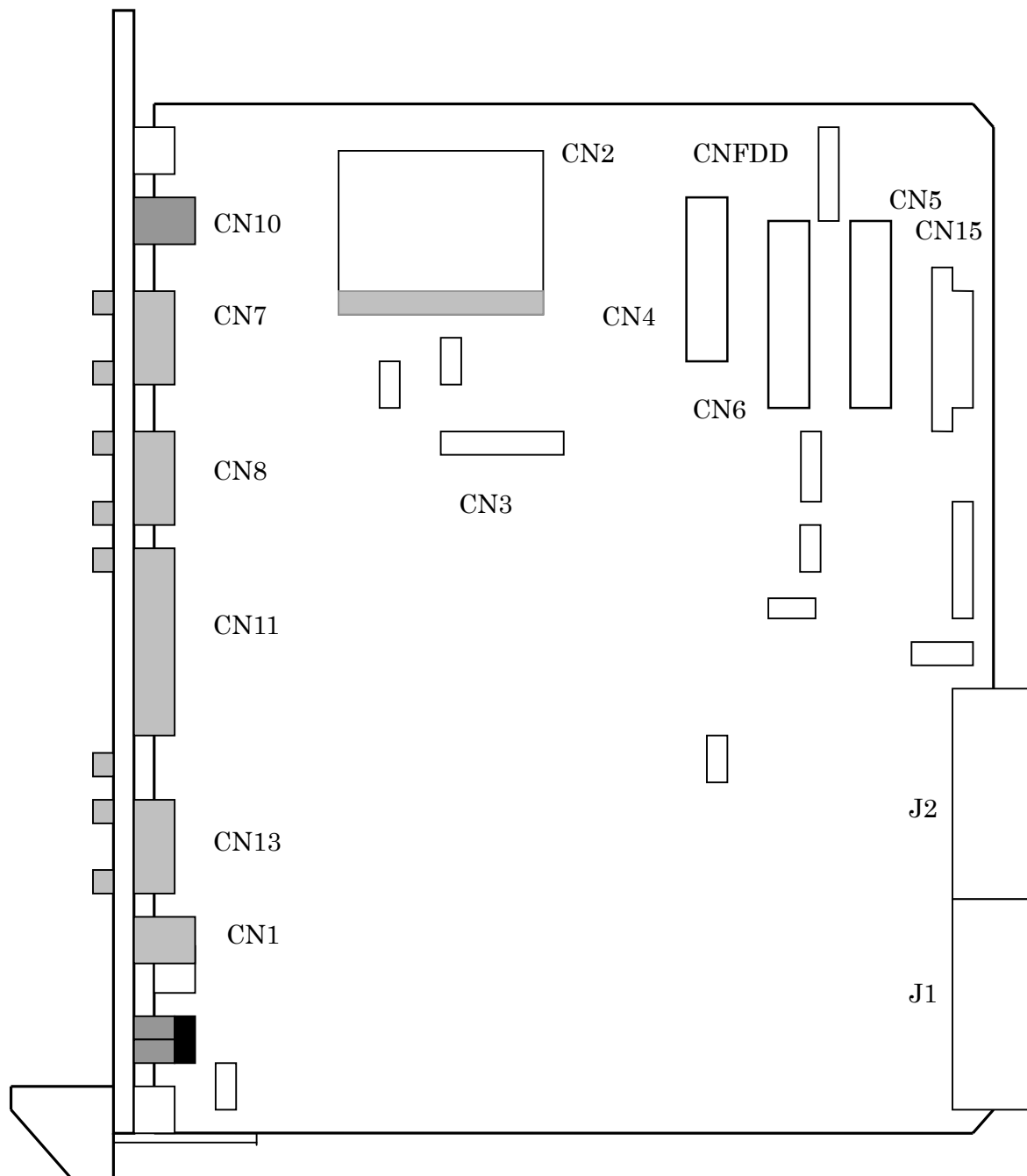


図 2 - 1 メインボード上のコネクタ位置

リファレンス	機能
CN1	Ethernet RJ-45 コネクタ
CN2	CompactFlash コネクタ (PrimaryIDE へ接続済み)
CN3	CARD PCI 接続用
CN4 / CNFDD	フロッピーディスクドライブ用
CN5	3.5 インチ E-IDE (Primary)
CN6	3.5 インチ E-IDE (SECONDARY)
CN7	COM1
CN8	COM2
CN10	Keyboard / Mouse 兼用 PS/2 ポート
CN11	パラレル
CN13	VGA
CN15	ATX 電源 (未実装)
SW1	プッシュボタンリセット
J1	CompactPCI J1 コネクタ
J2	CompactPCI J2 コネクタ
J3	CompactPCI J5 コネクタ(未実装)

補足

1 . PrimaryIDE

HDD / CD - ROM 等の IDE 機器接続用コネクタです。

制限事項：CompactFlash の設定をマスタに設定した場合、Slave のみ接続可能となります。

2 . Secondary IDE

HDD / CD - ROM 接続用の IDE コネクタです。

JP7 で使用可 / 不可の切り替えができます。

3 . CompactFlash

TrueIDE タイプの CompactFlash を接続できます。

JP4 の設定により Master / Slave の切り替えができます。

制限事項：Master に設定した場合、BIOS で Slave を None にするか PrimaryIDE に Slave 機器を接続してください

4 . ATX コネクタ

別途 ATX 電源を用意していただくことにより、単体で動作が可能ですが、ジャンパ設定が必要です。

詳細はジャンパ設定をご覧ください

2.2 コネクタピンアサイン

CN1 : Ethernet RJ-45 コネクタ

ピン NO.	説明
1	TX +
2	TX -
3	RX +
4	NC
5	NC
6	RX -
7	NC
8	NC

解説 :

TX+, TX-が送信側、RX+,RX-が受信側の信号です。差動信号を使用することにより安定動作が望めます。

一般的な Ethernet ハブへの配線にはカテゴリ 5 に準拠したストレートケーブルを、1 対 1 配線の場合はクロスケーブルをそれぞれご使用下さい。

CN2 : CompactFlash コネクタ

ピン NO.	説明	ピン NO.	説明
1	GND	2	Data3
3	Data4	4	Data5
5	Data6	6	Data7
7	Card Enable1#	8	Address10(GND)
9	ATA Select#(GND)	1 0	Address9(GND)
1 1	Address8(GND)	1 2	Address7 (GND)
1 3	VCC	1 4	Address6(GND)
1 5	Address5(GND)	1 6	Address4 (GND)
1 7	Address3(GND)	1 8	Address2
1 9	Address1	2 0	Address0
2 1	Data0	2 2	Data1
2 3	Data2	2 4	IOIS#(NC)
2 5	Card Detection2#(NC)	2 6	Card Detection1#(NC)
2 7	Data11	2 8	Data12
2 9	Data13	3 0	Data14

3 1	Data15	3 2	Card Enable2#
3 3	Vcc Voltage Sense1#(NC)	3 4	I/O Read#
3 5	I/O Write#	3 6	Write Enable#(Vcc)
3 7	Interrupt Request	3 8	Vcc
3 9	Card Select#	4 0	VccVoltageSense2#(NC)
4 1	Reset#	4 2	I/O Ready
4 3	Input Acknowledge#(NC)	4 4	Vcc
4 5	DiskActive/Slave Present#	4 6	Pass Diagnostic#
4 7	Data8	4 8	Data9
4 9	Data10	5 0	GND

解説：

TrueIDE 接続された CompactFlash のインターフェースです。TrueIDE とは、CompactFlash ATA カード機能で、CompactFlash を IDE ポートに直接繋ぐ電氣的仕様のことを言います。デフォルトでは Primary Slave に接続されていますが JP4 を接続する事により Master 接続にすることが可能です。電源端子には過電流保護素子を使用していますので、万が一、ショートしたときも安心です。

また、TrueIDE ですので、電源を入れたままの挿抜はできません。必ず電源を落としてから挿抜してください。

CN3 : CRAD PCI 接続用

ピン NO.	説明
1	Disk Change Status#
2	Write Protect#
3	Index Pulse#
4	Track 0#
5	Read Data#
6	High Density Select
7	Write Enable#
8	Head Select#
9	Head Stepper#
1 0	Head Stepper Direction#
1 1	Write Data#
1 2	Drive Select0#
1 3	MTR0#
1 4	GND
1 5	IRQ15

1 6	IRQ7
1 7	GND
1 8	IRQ4
1 9	GND
2 0	IRQ3(NC)

解説：

このコネクタには、主に FDD の信号、ISA の IRQ 信号が出力されています。

FFC(フレキシブル・フラット・ケーブル)で配線しておりますので、CARDPCI を再取り付けする際には接続不良が起こらないように注意しながら接続してください。

CN4：フロッピーディスクドライブ用

ピン NO.	説明	ピン NO.	説明
1	GND	2	DENSEL
3	GND	4	NC DS0#
5	NC	6	NC DSHG#
7	GND	8	INDEX#
9	GND	1 0	MTR0#
1 1	GND	1 2	NC
1 3	GND	1 4	DR0#
1 5	GND	1 6	NC
1 7	GND	1 8	DIR#
1 9	GND	2 0	STEP#
2 1	GND	2 2	WDATA#
2 3	GND	2 4	WGATE#
2 5	GND	2 6	TRK0#
2 7	GND	2 8	WP#
2 9	NC	3 0	RDATA#
3 1	GND	3 2	HDSEL#
3 3	NC	3 4	DSKCHG#

解説：

3.5Inch の標準 FDD を使用する際に接続するコネクタです。CNFDD コネクタと同時に使用することは出来ません。CNFDD を使用する場合は、必ず未接続にしてください。

CN5 : 3.5 インチ IDE コネクタ (Primary)

ピン NO.	説明	ピン NO.	説明
1	Reset#	2	GND
3	Data7	4	Data8
5	Data6	6	Data9
7	Data5	8	Data10
9	Data4	10	Data11
11	Data3	12	Data12
13	Data2	14	Data13
15	Data1	16	Data14
17	Data0	18	Data15
19	GND	20	NC
21	DMA Request#	22	GND
23	IO Write#	24	GND
25	IO Read#	26	GND
27	IO Ready	28	NC
29	DMA Acknowledge#	30	GND
31	Interrupt	32	NC
33	Address1	34	PDIAG#
35	Address0	36	Address2
37	Chip Select0#	38	Chip Select1#
39	DASP#	40	GND

解説 :

CN5 は Master 用 IDE ポートです。

Master 側は標準で Slave 側に CompactFlash が接続されています。

Master のみ UDMA33 に対応しています。

CN6 : 3.5 インチ IDE コネクタ (Secondary)

ピン NO.	説明	ピン NO.	説明
1	Reset#	2	GND
3	Data7	4	Data8
5	Data6	6	Data9
7	Data5	8	Data10
9	Data4	10	Data11
11	Data3	12	Data12
13	Data2	14	Data13

第2章 初期設定と実装

1 5	Data1	1 6	Data14
1 7	Data0	1 8	Data15
1 9	GND	2 0	NC
2 1	DMA Request#(NC)	2 2	GND
2 3	IO Write#	2 4	GND
2 5	IO Read#	2 6	GND
2 7	IO Ready	2 8	NC
2 9	DMA Acknowledge#(NC)	3 0	GND
3 1	Interrupt	3 2	NC
3 3	Address1	3 4	PDIAG#
3 5	Address0	3 6	Address2
3 7	Chip Select0#	3 8	Chip Select1#
3 9	DASP#	4 0	GND

解説：

CN5 は Master 用、CN6 は Slave 用 IDE ポートです。

Master 側は標準で Slave 側に CompactFlash が接続されています

Slave 側は ISA 接続ですので、PnP は使用できません。Windows9x ではハードウェアウイザードを使用して認識させる必要があります。

Master のみ UDMA33 に対応しています。

CN7：COM1 コネクタ (RS-232C)

ピン NO.	説明
1	Data Carrier Detect1
2	Receive Data1
3	Transmission Data1
4	Data Terminal Ready1
5	GND
6	Data Set Ready1
7	Request To Send1
8	Clear To Send1
9	Ring Indicator1

CN8 : COM2 コネクタ (RS-232C / 422 / 485)

ピン NO.	説明
1	Data Carrier Detect2 / Transmission Data2 -
2	Receive Data2 / Transmission Data2 +
3	Transmission Data2 / Receive Data2 +
4	Data Terminal Ready2 / Receive Data2 -
5	GND
6	Data Set Ready2 / Request To Send2 -
7	Request To Send2 / Request To Send2 +
8	Clear To Send2 / Clear To Send2 +
9	Ring Indicator2 / Clear To Send2 -

解説 :

COM1 は 16550 互換 RS-232C ポートです。BIOS の設定により割り込みを変更することが出来ます。

COM2 は以下の設定により RS-232C/RS-422/RS485 の切り替えが可能です。

切り替える際には分解が必要となりますので、必要の際は当社営業まで連絡いただければ再設定いたします。

なお、J17 は TXD のターミネート

J18 は RXD のターミネート

J19 は CTS のターミネート

の設定が可能です。ターミネートが必要な場合、「2-3」ショートしてください。

COM2のジャンパ設定

RS-232C/422/485モード切り換え

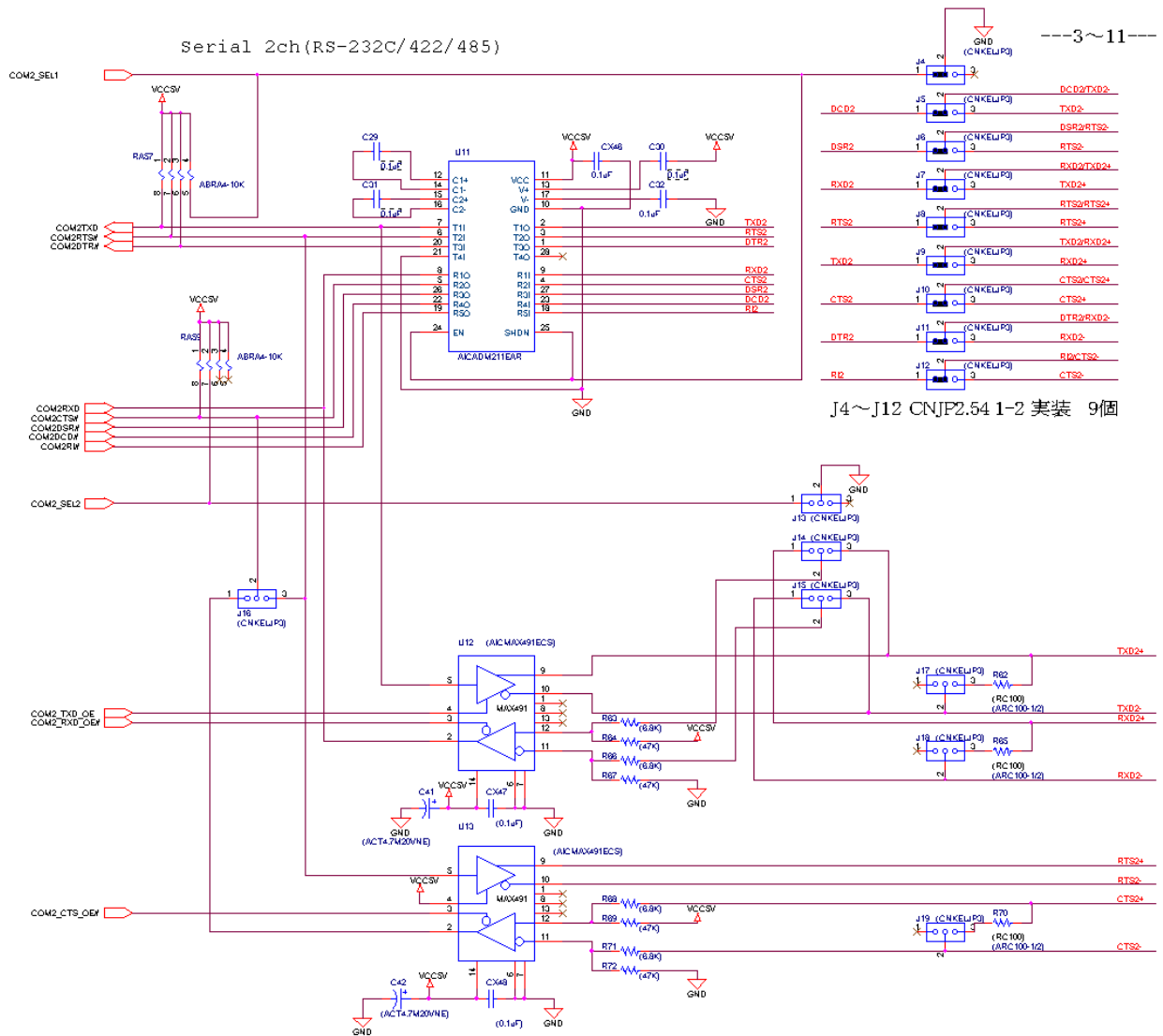
ジャンパ	RS-232Cモード	RS-422/485モード
J4~J12	1-2ショート ※J4~J16全て1-2ショート。	2-3ショート ※COM2_DTR#とCOM2_DSR#を接続。 ※COM2_DCD#とCOM2_CTS#を接続。 ※COM2_RI#=Low。

RS-422/485モード時

ジャンパ	全二重接続		半二重接続
	RTS、CTSを相手機器と接続する場合。	相手機器にRTS、CTSが無い場合。	
J13	1-2ショート	1-2ショート	2-3ショート
J14	1-2ショート	1-2ショート	2-3ショート
J15	1-2ショート	1-2ショート	2-3ショート
J16	1-2ショート	2-3ショート	2-3ショート

※データラインはTXDだけとなり、RTS信号（デフォルトはD1）により送受信を切り換える。

COM2 周辺回路図 (参考資料)



CN10：キーボード/マウスコネクタ（PS / 2）

ピン NO.	説明
1	Mouse Data
2	NC
3	GND
4	+5V
5	Mouse Clock
6	NC

解説：

PS/2 互換 キーボード、マウス兼用ポートです。PS/2 マウスをご使用の際には付属の分岐ケーブルをご使用下さい。

キーボードを直接接続することによりキーボードのみの制御も可能です。

CN11：パラレルポートコネクタ

ピン NO.	説明	ピン NO.	説明
1	Strobe#	2	Data0
3	Data1	4	Data2
5	Data3	6	Data4
7	Data5	8	Data6
9	Data7	10	Acknowledge
11	Busy	12	Paper Empty
13	Printer Select	14	Auto Form Feed#
15	Error#	16	Initialize
17	Printer Select IN#	18	GND
19	GND	20	GND
21	GND	22	GND
23	GND	24	GND
25	GND		

解説：

双方向通信用 LPT ポートです。

BIOS の設定により ECC,EPP,SPP 等の設定、割り込み、DMA チャンネルの設定が可能です。

CN13 : VGA コネクタ

ピン NO.	説明
1	Red
2	Green
3	Blue
4	NC
5	GND
6	GND
7	GND
8	GND
9	NC
10	GND
11	CRT Sence(NC)
12	DDC2BD(NC)
13	Horizontal Sync
14	Vertical Sync
15	Display Data Channel Clock(NC)

解説 :

CRT 接続用 VGA ポートです。

最大 1280 × 1024 の表示が出来ます。

高解像度に設定する場合、モアレなどの不具合を防ぐため、出来るだけ CRT への配線を短く配線するなどの適切な処置を行ってください。

CN15 : ATX 電源

ピン NO.	説明	ピン NO.	説明
1	+3.3V	11	+3.3V
2	+3.3V	12	- 12V
3	GND	13	GND
4	+5V	14	Power ON/OFF Control
5	GND	15	GND
6	+5V	16	GND
7	GND	17	GND
8	POWER-OK Signal	18	- 5V
9	Standby Power	19	+5V
10	+12V	20	+5V

解説：

標準で ATX コネクタは実装していません。。

SOC1 : DiscOnChip

ピン NO.	説明	ピン NO.	説明
1	NC	17	D3
2	NC	18	D4
3	NC	19	D5
4	A12	20	D6
5	A7	21	D7
6	A6	22	CE#
7	A5	23	A10
8	A4	24	OE#
9	A3	25	A11
10	A2	26	A9
11	A1	27	A8
12	A0	28	NC
13	D0	29	NC
14	D1	30	NC
15	D2	31	WE#
16	GND	32	+5V

解説：

最大 144MB の DiskOnChip が実装可能です。

第 2 章 初期設定と実装

コネクタピンアサイン表 (J1)

4 7	GND	GA4	GA3	GA2	GA1	GA0	GND
4 6	GND	CLK6	GND	RSV	RSV	RSV	GND
4 5	GND	CLK5	GND	RSV	GND	RSV	GND
4 4	GND	GND	GND	RSV	RSV	RSV	GND
4 3	GND	BRSVP2A18	BRSVP2B18	BRSVP2C18	GND	BRSVP2E18	GND
4 2	GND	BRSVP2A17	GND	PRST#	REQ6#	GNT6#	GND
4 1	GND	BRSVP2A16	BRSV P2B16	DEG#	GND	BRSVP2E16	GND
4 0	GND	BRSVP2A15	GND	FAL#	REQ5#	GNT5#	GND
3 9	GND	AD[35]	AD[34]	AD[33]	GND	AD[32]	GND
3 8	GND	AD[38]	GND	V(I/O)	AD[37]	AD[36]	GND
3 7	GND	AD[42]	AD[41]	AD[40]	GND	AD[39]	GND
3 6	GND	AD[45]	GND	V(I/O)	AD[44]	AD[43]	GND
3 5	GND	AD[49]	AD[48]	AD[47]	GND	AD[46]	GND
3 4	GND	AD[52]	GND	V(I/O)	AD[51]	AD[50]	GND
3 3	GND	AD[56]	AD[55]	AD[54]	GND	AD[53]	GND
3 2	GND	AD[59]	GND	V(I/O)	AD[58]	AD[57]	GND
3 1	GND	AD[63]	AD[62]	AD[61]	GND	AD[60]	GND
3 0	GND	C/BE[5]#	GND	V(I/O)	C/BE[4]#	PAR64	GND
2 9	GND	V(I/O)	BRSV P2B4	C/BE[7]#	GND	C/BE[6]#	GND
2 8	GND	CLK4	GND	GNT3#	REQ4#	GNT4#	GND
2 7	GND	CLK2	CLK3	SYSEN#	GNT2#	REQ3#	GND
2 6	GND	CLK1	GND	REQ1#	GNT1#	REQ2#	GND
2 5	GND	5V	REQ64#	ENUM#	3.3V	5V	GND
2 4	GND	AD[1]	5V	V(I/O)	AD[0]	ACK64#	GND
2 3	GND	3.3V	AD[4]	AD[3]	5V	AD[2]	GND
2 2	GND	AD[7]	GND	3.3V	AD[6]	AD[5]	GND
2 1	GND	3.3V	AD[9]	AD[8]	M66EN	C/BE[0]#	GND
2 0	GND	AD[12]	GND	V(I/O)	AD[11]	AD[10]	GND
1 9	GND	3.3V	AD[15]	AD[14]	GND	AD[13]	GND
1 8	GND	SERR#	GND	3.3V	PAR	C/BE[1]#	GND
1 7	GND	3.3V	IPMB_SCL	IPMB_SDA	GND	PERR#	GND
1 6	GND	DEVSEL#	GND	V(I/O)	STOP#	LOCK#	GND
1 5	GND	3.3V	FRAME#	IRDY#	GND	TRDY#	GND
1 4	KEY AREA						
1 1	GND	AD[18]	AD[17]	AD[16]	GND	C/BE[2]#	GND
1 0	GND	AD[21]	GND	3.3V	AD[20]	AD[19]	GND
9	GND	C/BE[3]#	GND	AD[23]	GND	AD[22]	GND
8	GND	AD[26]	GND	V(I/O)	AD[25]	AD[24]	GND
7	GND	AD[30]	AD[29]	AD[28]	GND	AD[27]	GND
6	GND	REQ0#	GND	3.3V	CLK0	AD[31]	GND
5	GND	BRSVP1A5	BRSV P1B5	RST#	GND	GNT0#	GND
4	GND	IPMB_PWR	HEALTHY#	V(I/O)	INTP	INTS	GND
3	GND	INTA#	INTB#	INTC#	5V	INTD#	GND
2	GND	TCK	5V	TMS	TDO	TDI	GND
1	GND	5V	-12V	TRST#	+12V	5V	GND
Pin	Z	A	B	C	D	E	F

第 2 章 初期設定と実装

コネクタピンアサイン表 (J 5)

2 2	GND	NC	NC	NC	NC	GND	GND
2 1	GND	NC	NC	NC	DISC_CHANGE	GND	GND
2 0	GND	SIDE_ONE_SELECT	GND	NC	READ_DATA	GND	GND
1 9	GND	WRITE_PROTECT	GND	NC	TRACK00	GND	GND
1 8	GND	WRITE_GATE	GND	NC	WRITE_DATA	GND	GND
1 7	GND	MOTOR_ON	GND	NC	DIRECTION_SELECT	GND	GND
1 6	GND	MOTOR_ON	GND	NC	NC	GND	GND
1 5	GND	DRIVE_SELECT	GND	NC	NC	GND	GND
1 4	GND	INDEX	GND	NC	NC	NC	GND
1 3	GND	NC	NC	NC	MODE_SELECT	NC	GND
1 2	GND	NC	NC	NC	NC	NC	GND
1 1	GND	NC	NC	NC	NC	NC	GND
1 0	GND	GND	DASP#	NC	CS1#	NC	GND
9	GND	ADR2	ADR0	NC	NC	CS0#	GND
8	GND	IOCS16#	INTRQ	NC	GND	ADR1	GND
7	GND	CSEL	IORDY	NC	GND	DMACK#	GND
6	GND	GND	IOW#	NC	GND	IOR#	GND
5	GND	NC	GND	NC	DATA15	DATA0	GND
4	GND	DATA14	DATA1	NC	DATA13	DATA2	GND
3	GND	DATA12	DATA3	NC	DATA11	DATA4	GND
2	GND	DATA10	DATA5	NC	DATA9	DATA6	GND
1	GND	DATA8	DATA7	NC	GND	RESET#	GND
Pin	Z	A	B	C	D	E	F

2.3 スイッチとジャンパなどの設定

CPU ボード上のジャンパは、すぐにご使用できるように設定してあります。変更せず、そのままご使用ください。

以下にボードのスイッチ、ジャンパなどの位置について記します。

設定を変更される場合は本説明書を読んでいただき、十分ご理解の上、ご使用ください。

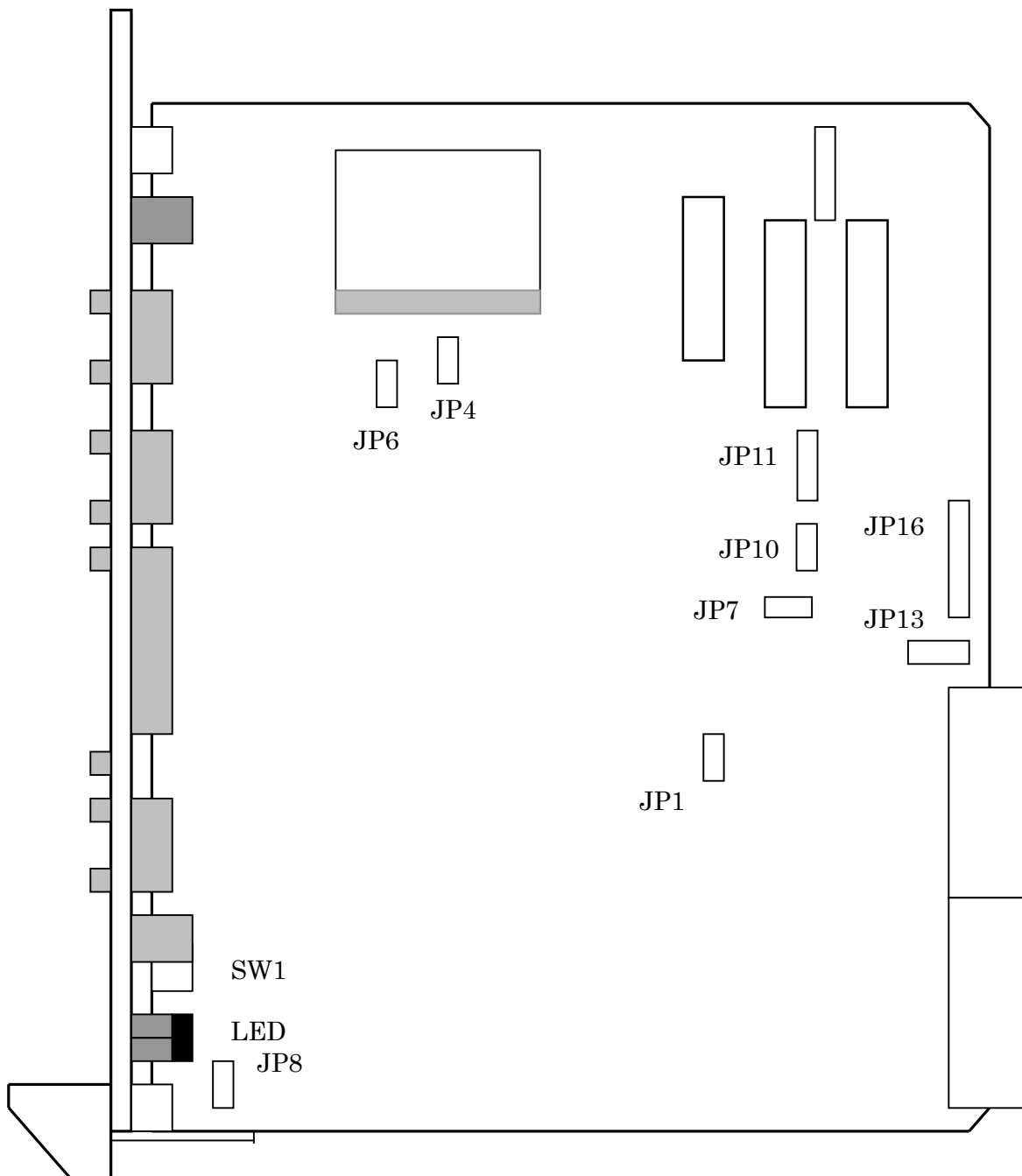


図 2 - 2 ボード上のスイッチ、ジャンパ位置

スイッチ

- SW1 : Push Button Reset スイッチ
ON 時、システムの強制リセットを行ないます。
このボタンは、システムの静止状態または、動作に何らかの不具合が発生した場合以外にはご使用なさらないでください。

LED

- PWR : 本ボードの電源入力時に点灯。
LNK : LAN 使用時点灯。
ACT : LAN 通信時点灯。
HDD : ハードディスク動作時点灯。

ジャンパ

- JP1 : CARD - PCI / GX 設定用ジャンパ (3Pin)
使用する CARD - PCI / GX を決定します。
特に必要がない限り設定を変更しないでください。

1 - 2	200MHz
2 - 3	300MHz (Default)

- JP4 : CompactFlash M / S Select (2Pin)
CompactFlash の Master / Slave 動作を決定します。
また CompactFlash は Primary IDE にのみ接続されていて、BOOT で使用する際には Master、DATA 領域で使用する際には Slave 設定を行なってください。

ショート	Primary Master
オープン	Primary Slave (Default)

- JP6 : CompactFlash DASP# Enable (2Pin)
CompactFlash のアクセス LED 表示設定用です。

ショート	CF LED DISABLE
オープン	CF LED ENABLE (Default)

なお、JP6 を Disable にした場合、CompactFlash の BIOS での認識が失敗することがあります。

JP7 : Secondary IDE Enable (2Pin)

Secondary IDE の ENABLE / DISABLE 切り替えです。

ショート	SecondaryIDE ENABLE (Default)
オープン	SecondaryIDE DISABLE

JP8 : RESET INPUT (2Pin)

ジャンパをショートすると Reset がかけられます。Reset を外部に接続する場合にご使用ください。通常はオープンです。

ショート	RESET INPUT
オープン	Normal (Default)

JP10 : VCC3V_CORE Power Select (2Pin)

CARD - PCI / GX に供給する 3.3V の Source を選択します。ボード上に IC1082CT (リファレンス : U18) が実装されている場合は Short、未実装の場合は OPEN で使用します。

ショート	VCC3V_CORE = VCC3V (Default)
オープン	Generate from VCC5V

JP11 : CPCI3.3V SWITCH

CompactPCI バス上の 3.3V を使用するか否かを決定します。通常は使用しないでください。

1 - 2	NotSupplyCPCI3.3V INPUT (Default)
3 - 4	IFCPCI3.3VINPUT

JP13 : V(I / O) Power Seselect (2Pin)

V(I / O) が CompactPCI バスから供給されていない場合、CompactPCI バスに出力するバッファの電源レベルを決定します。

通常はオープンです。

1 - 2	NotSupplyCPCI3.3V INPUT
3 - 4	IFCPCI3.3VINPUT

JP16 : ISP Programmer Port

U21 CPLD の ISP 用ジャンパ (データ書き込み用) です。
ご使用された場合、不具合の原因となります。

1Pin	Vcc
2 Pin	GND
3 Pin	TCK
4 Pin	TDO
5 Pin	TDI
6 Pin	TMS

Note

プリンタポートの設定

SPP：コンパチビリティモード、ニブルモード、バイトモードにより双方向通信を行い最大 150KBps の転送速度になります。

コンパチビリティモードは、一般にはセントロニクスモードと呼ばれており、パソコンから周辺機器へ 8 ビットデータ転送を行うことができます。ニブルモードは周辺機器からパソコンの方向にステータスラインを使って 8 ビットデータを 4 ビットずつ 2 回に分けて転送します。バイトモードも周辺機器からパソコンへデータラインを使って 8 ビットデータを転送します。

EPP(Enhanced Parallel Port)

：EPP は、パラレルポートへ入出力するデータをラッチなしで直接書くか、または読み込むことによって、パラレルポートのスループットを高めたモードです。プリンタ以外の周辺機器(CD-ROM, LAN 等)で使われています。データのリードライトサイクルは ISA バス相当の $1\mu\text{sec}$ で行われ、500K ~ 2MBps の転送速度になります。

EPP1.7 と EPP1.9 はプロトコルの違いです。

ECP(Extended Parallel Port)

：IBM AT と PS/2 のコンパチブルなモードです。双方向通信がサポートされており、プリンタ、スキャナ等で使われています。EPP をより高速化するために FIFO バッファ、DMA 転送、データ圧縮 RLE(Run Length Encoded)を使った転送プロトコルが追加されています。

基本的に SPP モードの機能もエミュレートするようになっていますので、SPP モードで使用することは可能です。しかしながら、実際にご利用のプリンタがそのような仕様になっていない場合もあります。

第3章

BIOSセットアップ

3.1 メニューと項目

BIOS のセットアップでは、システムの基本的な設定を行います。
設定内容はバッテリーでバックアップされた CMOS RAM に保存されます。

セットアップ画面の呼び出し

本製品の電源を投入した時にすぐに < Del > キーを押すとセットアップ画面を呼び出すことができます。

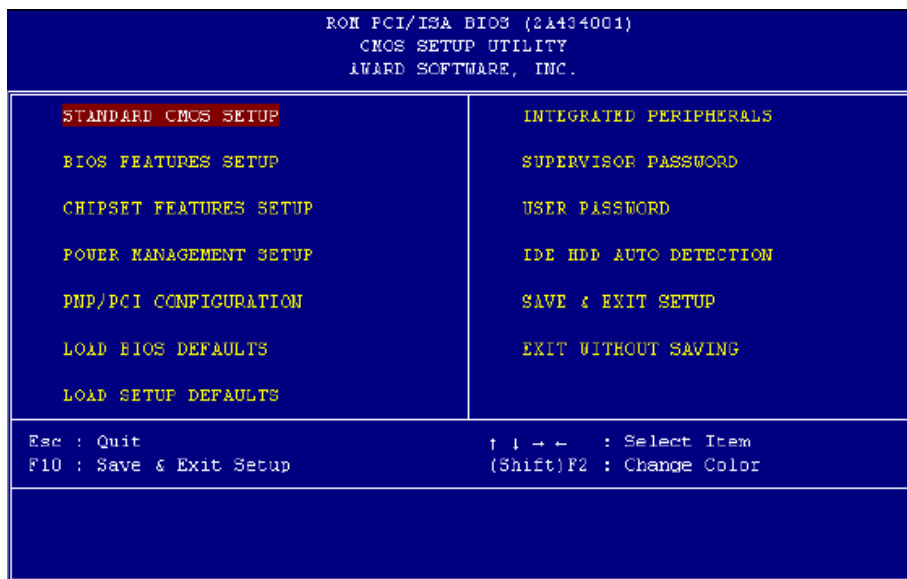
セットアップ画面でのキー操作について

	前の項目に移動します。
	次の項目に移動します。
	左の項目に移動します。
	右の項目に移動します。
Esc	メインメニューにいるとき - 変更を保存しないで終了します。 他のメニューにいるとき - メインメニューに戻ります。
PgUp / ”+”	数値を増やすか、設定を変更します。
PgDn / ”-”	数値を減らすか、設定を変更します。
F1	ヘルプを表示します。ただし、メインメニューでは表示しません。
(Shift)F2	画面の色を変更します。
F3	予約
F4	予約
F5	以前の CMOS の値を CMOS から呼び出します。ただし、下のウィンドウに F5 キーの説明が出ていないときには機能しません。
F6	BIOS のデフォルトテーブルよりデフォルトの CMOS の値を呼び出します。ただし、下のウィンドウに F6 キーの説明が出ていないときには機能しません。
F7	工場出荷の設定を呼び出します。ただし、下のウィンドウに F6 キーの説明が出ていないときには機能しません。
F8	予約
F9	予約
F10	すべての設定を保存します。ただし、メインメニューにいるときのみ機能します。

ヘルプ画面呼び出し

メインメニューにいるときは、画面の下部に選択した項目の説明が表示されます。

その他のメニューにいるときは<F1>キーを押すとヘルプ画面がポップアップ表示されます。ヘルプ画面を抜け出すには、<F1>キーか<Esc>キーを押します。



3.2 STANDARD CMOS SETUP メニュー

Standard CMOS Setup には次のような項目があります。

Date(mm:dd:yy)

現在の日付を入力します。

Time(hh:mm:ss)

現在の時間を入力します。

Primary(Secondary)Master &Slave

ハードディスクのタイプとモードを指定します。通常は両者とも AUTO を選択してください。

タイプは

Auto : BIOS に HDD のタイプを自動で設定させるときに選択します。

User : ユーザーが HDD のタイプを設定するときを選択。

None : IDE HDD が接続されていない場合、または CD-ROM のような HDD 以外のデバイスが接続されているときに選択します。

モードは

Auto : BIOS に HDD のモードを自動で設定させるときに選択します。

Normal : 528MB 以下の IDE HDD を使用しているときに選択します。

LBA : 528MB 以上の E-IDE HDD を使用しているときに選択します。

Large:Large IDE HDD を使用しているときに選択します。

注意事項:

- 1.CD-ROM を接続するときは None、SCSI ハードディスクのときは None、ESDI ハードディスクのときは Type1 を選択してください。
- 2.タイプで AUTO を選択したときはモードも AUTO を選択してください。
- 3.HDD のタイプやモードについて質問があるときは HDD の製造元にお尋ねください。

Drive A & B

A および B ドライブの FDD の種類を選択してください。

Halt on

起動時に行なうハードウェアチェックの種類を選択します。もし、支障があれば、一時停止してエラーメッセージが表示されます。

All Errors : 何らかのエラーが生じたら止まるようにする。

No Errors : すべてのエラーを無視する。

All,But Diskette : FDD 以外のすべてのエラーを表示する。

All,But Keyboard : キーボード以外のすべてのエラーを表示する。

All,But Disk/Key : キーボードと FDD 以外のすべてのエラーを表示する。

3.3 BIOS FEATURES SETUP メニュー

コンピュータの起動および動作状態を設定します。

Boot Virus Detection

ブートセクタに感染するウィルスをチェックします。

Disabled :チェックしません。

Enabled :チェックします。

CPU Internal Cache

CPU の内部キャッシュの有効/無効を設定します。

Disabled :無効にします。

Enabled :有効にします。

Quick Power On Self Test

システム起動時の Power On Self Test(POST)の実行回数を選択します。これを有効にすると、例えば、メモリカウントは1回に短縮されます。

Disabled :複数回実行します。

Enabled :1回だけ実行します。起動時間を短くすることができます。

Boot Sequence

システムを起動するドライブを選択します。システムファイルをこの順番で検索し、最初にシステムファイルが見つかったドライブから起動します。

「A,C,SCSI」を選択すると A C SCSI の順に検索します。

Boot Up Floppy Seek

起動時に FDD のシーク動作を行うかを選択します。

Disabled :シーク動作を行いません。

Enabled :シーク動作を行います。

Boot Up NumLock Status

起動時の NumLock の状態を設定します。

Off :NumLock が押されていない状態にします。

On :NumLock が押された状態にします。

Gate A20 Option

Gate A20 の制御の方法を指定します。

Gate A20 は 1MB 以上のアドレスへのメモリアクセスに用いられ

る手法で、Normal に設定するとキーボードコントローラにより扱われるが、Fast 設定にするとチップセットにより Gate A20 が扱われ、高速なメモリアクセスが可能になります。

Normal : IBM PC/AT 互換

Fast : 高速

Typematic Rate Setting

Typematic Rate と Typematic Delay の設定を変更します。

Disabled : Typematic Rate 、 Typematic Delay を固定値(6 文字/秒、250ms)に設定します。

Enabled : Typematic Rate と Typematic Delay の値を任意に変更します。

Typematic Rate (Chars/Sec)

1 秒間のキーリピート回数を選択します。

6/8/10/12/15/20/24/30 文字/秒

Typematic Delay (Msec)

最初のキー入力から次のキー入力を受け付けるまでの時間を選択します。

250/500/750/1000ms

Security Option

パスワードの入力を要求するタイミングを選択します。

Setup : CMOS Setup プログラム実行時にパスワードを要求します。

System : システム起動時と CMOS Setup プログラム実行時にパスワードを要求します。

PCI/VGA Palette Snoop

PCI のビデオカードと、ISA や VESA のビデオカードや MPEG カードを使用するときに正常な色が表示されない場合があります。

そのときにこの項目を有効にしてください。

ビデオカードで指示があるときに[Enabled]を選択します。

Disabled : スヌープ処理を行いません。

Enabled : スヌープ処理を行います。

OS/2 Onboard Memory >64M

OS/2 で、64MB 以上のメモリを使用する場合に[Enabled]を選択します。

Disabled : 64MB 以上のメモリを使用しません。

Enabled :64MB 以上のメモリを使用します。

Report No FDD For WIN 95

Windows 95 使用時に、Windows 95 にレポートする FDD 状態値を選択します。

Yes : FDD なし、を常に返す

No : FDD の接続状態にしたがった値を返す

Video ROM BIOS Shadow

ビデオ BIOS を RAM 上に転送して実行する(シャドウ処理)かを選択します。RAM 上で実行すると処理スピードを上げることができます。

Disabled :RAM に転送せず、ROM 上で実行します。

Enabled :RAM に転送して実行します。

C8000-CBFFF Shadow

CC000-CFFFF Shadow

D0000-D3FFF Shadow

D4000-D7FFF Shadow

D8000-DBFFF Shadow

DC000-DFFFF Shadow

(拡張 BIOS のシャドウ処理の設定)

C8000h から DFFFFh までに割り当てられる拡張カード上の BIOS ROM を RAM に転送して実行するかを設定します。

Disabled :RAM に転送せず、ROM 上で実行します。

Enabled :RAM に転送して実行します。

3.4 CHIPSET FEATURES SETUP メニュー

このメニューはメインボード上のチップセットに関係しています。チップセットについて詳しいユーザー以外の方には下記の項目以外はデフォルトの設定でご使用ください。

3.5 POWER MANAGEMENT SETUP メニュー

省電力モードに関するメニューです。

Power Management

省電力モードの度合いを設定します。

Disable : 省電力モードを無効にします。

User Define : 省電力モードに関する各種設定をユーザーが設定できます。

Min Saving : 省電力モードに関するタイマ設定の最大値が使われ
ます。

Max Saving : 省電力モードに関するタイマ設定の最小値が使われ
ます。

Video Standby Mode

Video Standby Mode に移行する時間を指定します。

Disable : Standby Mode に移行しません。

4 Sec 2 Min : 4 秒から 2 分を選択します。

Stanby Mode

システム が使われなくなってから何分後にスタンバイモードに移行
させるかを設定します。

Disable : Standby Mode に移行しません。

1Min - 1 Hour : 1 分から 1 時間を選択します。

HDD Power Down

システム が使われなくなってから何分後に IDE HDD を省電力モー
ドに移行させるかを設定します。

Modem Use IRQ

MODEM が使用する割り込み番号を選択します。

N/A : IRQ を使用しません。

3/4/5/7/9/10/11 のいずれかが選択できます。

RING POWER ON Controller

Ring Power On 機能を設定します。

Disabled : 機能を無効にします。

Enabled : 機能を有効にします。

NET POWER ON Controller

LAN Wake Up 機能を設定します。

Disabled : 機能を無効にします。

Enabled : 機能を有効にします。

RTC Alarm Function

アラーム機能 (指定した時刻に電源 ON) を設定します。

Disabled : 機能を無効にします。

Enabled : 機能を有効にします。

Soft-off by PWR-BTTN

PWR-BTTN が押された時の動作を指定します。

Instant-Off : 押下された時点ですぐに電源を切ります。

Delay 4 Sec : 4 秒間押下しつづけると電源を切ります。4 秒以内の時には、Standby Mode に移行します。

3.6 PNP/PCI CONFIGURATION メニュー

このセクションでは PCI バスの設定を行ないます。このセクションは技術的な内容になりますので、PCI バスに関して詳しい知識をお持ちのユーザー以外の方はデフォルトの設定でご使用ください。

PNP OS Installed

初期設定[No]で使用します。

Resource Controlled by

Award Plug & Play BIOS は、この項目を Auto に設定することによりブート時に PnP 対応デバイスの各種設定を自動で行なってくれます。しかし、PnP 対応 OS を使わない限りは意味を成さないのので、利用する OS により Auto か Manual を選択してください。

Reset Configuration Data

この項目は PnP/PCI のコンフィギュレーションデータをリセットするかを決めます。

PCI IRQ Activated by

PCI バスが、デバイスからの IRQ サービスの要求をどのように認識するかを設定します。特に指定された場合以外はデフォルトの設定(Level)を使用してください。

IRQ-X assigned to

(IRQ 信号の設定)

各 IRQ 信号ごとに使用する拡張カードを設定します。

Legacy ISA : PnP に対応していない ISA カードで使用します。

PCI/ISA PnP : PnP に対応した拡張カードで使用します。

DMA x assigned to

(DMA チャンネルの設定)

各 DMA チャンネルごとに使用する拡張カードを設定します。

Legacy ISA : PnP に対応していない ISA カードで使⽤します。

PCI/ISA PnP : PnP に対応した拡張カードで使⽤します。

Used MEM base addr

PnP に対応していない ISA カードで使⽤するメモリ領域を設定します。

N/A :メモリ領域を使⽤しません。

C800 - DC00 :アドレスを指定します。

8K/16K/32K/64K :サイズを指定します。

3.7 INTEGRATED PERIPHERALS メニュー

周辺機器に関する設定を行います。

IDE HDD Block Mode

HDD コントローラがブロックモード転送を行なうかどうかを設定します。

Primary IDE Channel

オンボード上の IDE コントローラを使⽤するか設定します。

Disable :使⽤しません。

Enable :使⽤します。

Master Drive PIO Mode

IDE の動作モードを設定します。

Auto :自動設定します。

Mode 0/1 /2/3/4 :動作モードを指定します。

Slave Drive PIO Mode

IDE の動作モードを設定します。

Auto :自動設定します。

Mode 0/1 /2/3/4 :動作モードを指定します。

IDE Primary Master UDMA

HDD を Ultra DMA ノードで使⽤するか設定します。

Disable :使⽤しません。

Enable :使⽤します。

IDE Primary Slave UDMA

HDD を Ultra DMA ノードで使⽤するか設定します。

Disable :使用しません。

Enable :使用します。

KBC Input Clock

KB Controller の入力クロックを選択します。

8MHz/1 2MHz/1 6MHz : 動作クロックを選択します。

On board FDC Controller

本製品上の FDC を有効にするか無効にするかを設定します。

On board Serial Port 1 /On board Serial Port 2

本製品上のシリアルポートの設定を変更します。

On board Parallel

パラレルポートの I/O アドレスと IRQ の設定を決めます。

もし、PIO ポートを拡張ボードを使って増やす場合、衝突しないように I/O アドレスや IRQ を割り当ててください。

Parallel Port Mode

パラレルポートのモードを Normal 、 EPP 、 ECP 、 ECP+EPP のなかから選択してください。

Video Memory Size

Video Memory の設定

1.5M. 2.5M, 4.0M

Display Selection

CRT 設定で固定にしてください

3.8 LOAD BIOS DEFAULT メニュー

初期設定値を読み込みます。

一番低いシステムパフォーマンスとなるように設定されており、トラブルが発生してシステムの動作がおかしくなったときに使います。

3.9 LOAD SETUP DEFAULT メニュー

BIOS 設定の内容を工場出荷時のデフォルト値に設定します。

3.10 SUPERVISOR PASSWORD メニュー

スーパーバイザパスワードを設定すると管理者のみ BIOS の設定を変更できるようになります。そして、Security Option で"System"を選んだとき、ブート時にパスワードが要求されるようになります。

パスワードを設定するときは、パスワードのメニューを選択し

ENTER PASSWORD:と表示されたときに、パスワードを入力して<Enter>を押すと設定されます。

また、パスワードを無効にするときは上の画面のときに、何も入力せずに<Enter>キーを押せば、無効になります。

BIOS Features Setup の Security Option において、いつパスワードが要求されるかどうかを設定できます。"System"と設定した場合は、システム起動時と BIOS セットアップに入る時にパスワードが要求されます。"Setup"と設定した場合は、BIOS セットアップに入る時のみパスワードが必要となります。

3.11 USER PASSWORD メニュー

ユーザーパスワードを設定すると、ユーザーは BIOS の設定メニューに入ることはできますが、設定内容を変更することはできません。

3.12 IDE HDD DETECTION メニュー

IDE HDD のパラメータを BIOS が自動で読み出し、IDE HDD のコンフィギュレーションを行ないます。ここで検出された値は、Standard CMOS Setup の HARD DISKS に自動的に入力されます。

注意事項:

HDD のタイプやモードについて質問があるときは HDD の製造元にお尋ねください。

第4章

その他の機能

4.1 ウォッチドッグタイマ機能

本ボードに搭載しているウォッチドッグタイマを使用することにより、プログラムが永久ループに入ったり、CPUの暴走などの異常を検出することができます。

I/Oポートの詳細

I/O アドレス	リード	ライト
300H	ウォッチドッグタイマ リロードレジスタ	ウォッチドッグタイマ コントロールレジスタ

ウォッチドッグタイマコントロールレジスタ

I/O アドレス=300h

Output

Bit7	Bit6	Bit5	Bit4	Bit3	Bit2	Bit1	Bit0
-	-	WDTC	WDTS	-	WDT2	WDT1	WDT0

WDTC、WDTS

: 本ビット群で、ウォッチドッグタイマのディゼーブル/イネーブルおよび、動作モードの設定をします。

00 : ウォッチドッグタイマをディゼーブルにする

01 : ウォッチドッグタイマをディゼーブルにする

10 : ウォッチドッグタイマ (RESETモード) をイネーブルにする

11 : 予約

WDT2 ~ WDT0

: 本ビット群への設定値が、ウォッチドッグタイマのタイムアウト値として設定されます。

000 : 1秒に設定

001 : 2秒に設定

010 : 4秒に設定

011 : 8秒に設定

100 : 16秒に設定

101 : 32秒に設定

110 : 64秒に設定

111 : 128秒に設定

ウォッチドッグタイマリロードレジスタ

I/O アドレス=300h

Input

Bit7	Bit6	Bit5	Bit4	Bit3	Bit2	Bit1	Bit0
-	-	-	-	-	-	-	-

本レジスタをリードすると、WDT 2 ~ WDT 0 の設定値が、ウォッチドッグタイマへ再設定されます。リード時のデータは意味のないデータです。

4.2 温度監視機能

本ボードに搭載している温度監視機能を使用することにより、システムの異常な温度上昇を検出することが可能になります。

温度監視ICとして、ナショナルセミコンダクタ製 LM74CIM-5 を使用しています。

I/Oポートの詳細

I/O アドレス	リード	ライト
301H	温度測定データレジスタ	温度測定コントロールレジスタ

温度測定コントロールレジスタ

I/O アドレス=301h

Output

Bit7	Bit6	Bit5	Bit4	Bit3	Bit2	Bit1	Bit0
-	-	-	DIR	-	CS	SC	SO

CS：温度センサのチップセレクトです。

0：CSラインを”Low”にします。

1：CSラインを”Hi”にします。

SC：温度センサとのシリアル通信用クロックを発生します。

0：SCラインを”Low”にします。

1：SCラインを”Hi”にします。

DIR：シリアル通信のデータ入出力方向を決定します。

0：SI/Oラインを入力として使用します。(SOビット無効)

1：SI/Oラインを出力として使用します。(SOビット有効)

SO：シリアル通信のデータ出力ビットです。

0：SI/Oラインを”Low”にします。

1：SI/Oラインを”Hi”にします。

温度測定データ

I/O アドレス=301h

Input

Bit7	Bit6	Bit5	Bit4	Bit3	Bit2	Bit1	Bit0
-	-	-	-	-	-	-	SI

SI : シリアル通信のデータ入力ビットです。

0 : SI / Oラインが”Low”になっています。

1 : SI / Oラインが”Hi”になっています。

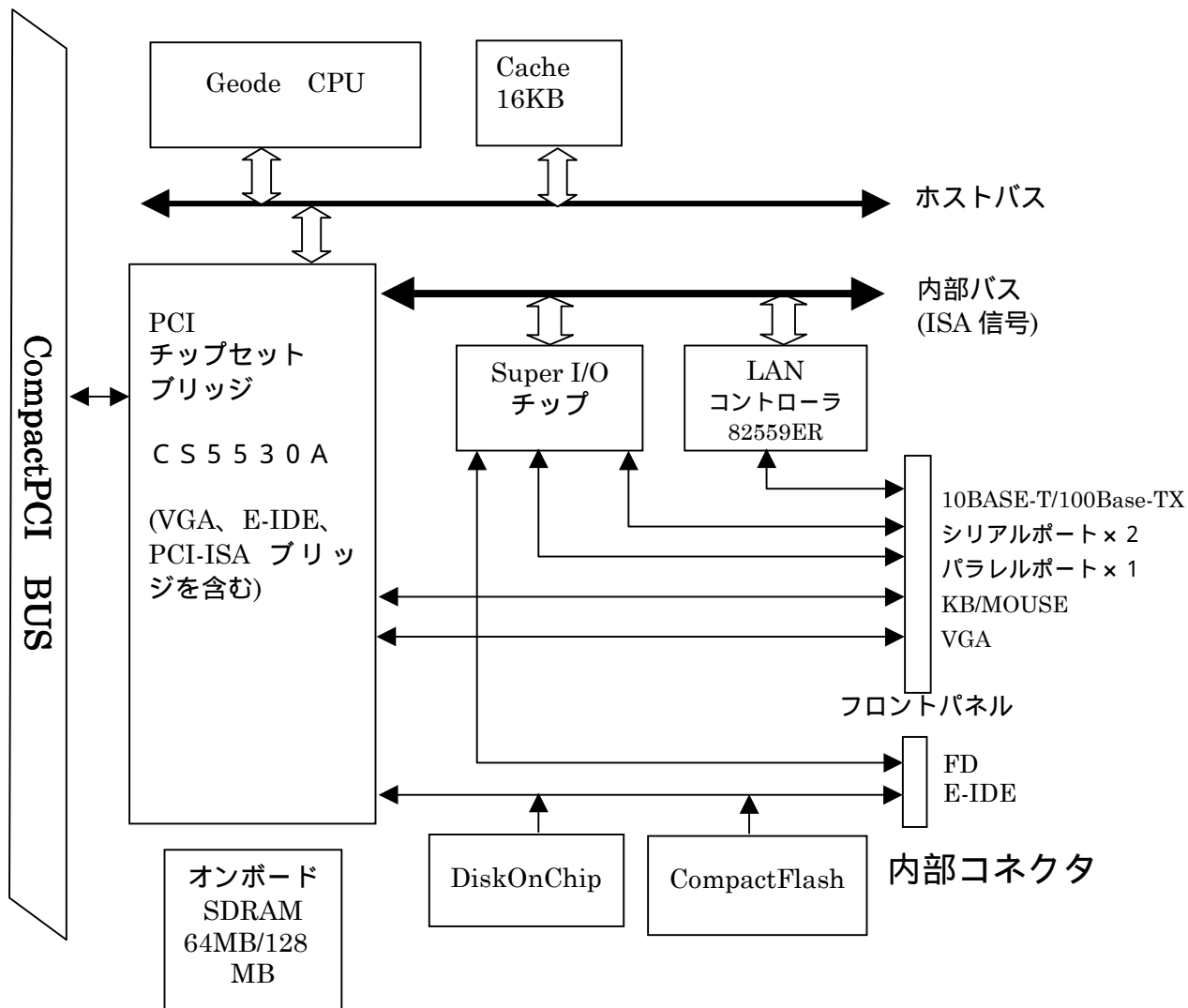
A u d i oの資源割り当てに関して

Windows 98等のOSを使用するとPnPでAudioデバイスがインストールされますが本ボードはAudio機能を搭載しておりません。I/O MAP 220H上にAudioのポートが割り当てられています。不具合がある場合はBIOS上でI/Oポートを変更することができます。

第5章

製品仕様

ブロック図



a P C I - 9 0 2 0 基本仕様

項目	仕様
モジュール	EPSON 社製 CARD - PCI / GX
C P U	National Semiconductor 社製 GeodeGXLV 200MHz / 300 MHz
システム メモリ	シンクロナス D R A M 64M B / 128M B
キャッシュ メモリ	L1 - 16KB (内蔵)
B I O S	Phoenix 社製 AWARD BIOS
チップセット	National Semiconductor 社製 GeodeCS5530 (コンパニオンチップ)
Video	National Semiconductor 社製 GeodeCS5530 最大解像度 : 1280 × 1024(256 色) 最大表示色 : 1024 × 768 (64K 色)
グラフィック	R A M最大 4 M B (メインメモリの 1 部を使用)
シリアル ポート	Ch1 : R S - 2 3 2 C Ch2 : R S - 2 3 2 C / 4 2 2 / 4 8 5 切替可能 R S - 2 3 2 C は非同期転送 (調歩同期) 16550 互換
パラレル ポート	× 1 ポート (S P P / E C P / E P P)
KB / マウス	× 1 (分岐ケーブル付属)
L A N	10 Base-T / 100Base-TX Intel 社製 82559ER
CompactFlash	TypeI または TypeII × 1 スロット IDE モード
IDE	× 2 U D M A 33 対応 (C F を除く) Primary E - I D E コネクタ オンボード CompactFlash (TrueIDE Mode) ジャンパ設定により以下の設定が可能 CompactFlash の Master / Slave 切り替え Secondary オンボードコネクタ PIO 転送、ジャンパ設定により切り離しが可
FDD	× 1 1 2 モード対応 (720MB / 1.44MB)
その他	ブザー × 1 プッシュボタンリセット × 1 その他の 2 次記憶 DiskOnChip (MAX144MB) 温度監視 W D T (WatchDogTimer)

外形寸法	CompactPCI 規格準拠 6 U サイズ (160.0mm × 233.35mm コネクタ / パネル部を除く)
パネル	幅 : 8HP (2 スロット) 高さ : 6U
電源電圧	5V (+ 12V はパネル面に出力) V(I/O) 5V / 3.3V 切り替え可能 (ジャンパ設定による)
動作温度範囲	温度 : 0 ~ +50 湿度 : 20 ~ 80% (ただし結露無きこと)
消費電流	1.5A / 5V (TYP.)
保証期間	3 年間 (36 ヶ月) (オプション品をのぞく)

E-mail

240-0005

134 YBP

1F

Tel 045-333-0335

Fax 045-331-7770

E-mail support@adtek.co.jp

10

12

1

5

CompactPCI
CPU

2001 10 05

240-0005

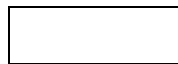
134

YBP

1F

el 045-331-7575

Fax 045-331-7770



CPCI-050-011005

© ADTEK SYSTEM SCIENCE Co.,Ltd. 2001